

外国語学部における中途退学者の分析

Analysis of Dropouts in the Faculty of Foreign Studies

仲田 知弘^{*1}, 浜 正樹^{*1}

Tomohiro NAKADA^{*1}, Masaki HAMA^{*1}

^{*1}文京学院大学外国語学部

^{*1}Faculty of Foreign Studies, Bunkyo Gakuin University

Email: tnakada@bgu.ac.jp

あらまし：日本の大学は、進学者が高まるにつれて中途退学者が約8万人に達成した。また、多くの大学では学習支援や教学インスティテューショナル・リサーチを設置し、中途退学者の対応や分析を行っている。本学もまた、中途退学者が目立つようになり、中途退学者の特徴を知る必要がでてきた。そこで、本稿では、文京学院大学外国語学部における中途退学者の成績評価に基づいて分析を行い、外国語学部の中途退学者の特徴を明らかにする。

キーワード：外国語学部、中途退学者、成績評価、教学インスティテューショナル・リサーチ

1. はじめに

近年、日本の大学は進学率が高まるにつれて、中途退学者が増加し、学習支援全般について全学的な方針を定めている大学が増えている⁽¹⁾。さらに、大学の教学インスティテューショナル・リサーチ(IR)を含めた教員や研究者は、各学部の中途退学者の分析や分析方法の提案が行われている⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾。その中で、大河内ら⁽²⁾は、工学系の大学で高校の数学のテスト結果から休学や退学を予測する方法を提案している。中本ら⁽³⁾は、外国語学部生の特徴として、1年次の低い単位取得者の留年や退学に至ることが高くなると述べている。白鳥⁽⁴⁾は、中途退学者のうち、退学者と除籍者の扱いが大学によって異なることを述べている。

本学もまた、中途退学者が目立つようになり、学生の個別面談等の対策を実施している状況である。しかし、学生の個別面談は、多くの教職員が関わり、教職員の負担が大きい。そこで、本学では“科目履修システム”と“在籍情報システム”の活用を検討し、退学者の成績を分析した⁽⁵⁾。しかし、中途退学者の除籍者の分析を行っていない。

そこで、本稿では、外国語学部生の成績を分析し、中途退学者の特徴を把握する。

2. 利用データと分析方法

利用するデータは、文京学院大学外国語学部の“科目履修システム”と“在籍情報システム”から2015年入学者から2018年入学者までの中途退学者のデータを抽出した。なお、これらのデータは、2022年9月現在のデータに基づくものである。中途退学者は、退学者と除籍者に分けることができる。本学の退学は、“退学願”が有り、学納金が納入済みであることを条件としている。また、本学の除籍の条件は、下記の4点である。

- ・最長在学年限（8年）を超えた者
- ・学費の納付を怠り、催促してなお納付しない者

- ・所定の休学期間を超えてなお復学しない者
- ・長期にわたり行方不明の者

そこで、中途退学者のうち退学者データは、4年間で134名分を分析対象とした。除籍者データは、4年間で114名分あるが、空白データが多い1名分を削除し、113名を分析対象とした。本稿では、それぞれの特徴を比較するため、記述統計やクロス集計を用いて比較する。

3. 分析結果

3.1 入学年度における退学と除籍の時期

本稿では、入学年度の退学者と除籍者に分け、その年度ごとに、中途退学の処理が行われた時期を表1のように割合で示した。表1で30%以上に着目すると、退学は1年目から2年目にあり、除籍は2年目から3年目にある。特に、各年度の1年目と2年目の退学者を合計すると、退学者のうち5割を超えている。除籍者もまた時期が遅れるぐらいで、各年度の3年目まで5割を超えている。一方、年数が増えるにつれて退学も除籍の割合も減る傾向にある。

表1 退学と除籍の時期

	2015年		2016年		2017年		2018年	
	退学	除籍	退学	除籍	退学	除籍	退学	除籍
1年目	31%	23%	38%	14%	24%	17%	26%	21%
2年目	19%	14%	35%	27%	32%	45%	38%	39%
3年目	22%	17%	12%	32%	24%	24%	12%	21%
4年目	16%	20%	8%	14%	15%	10%	24%	11%
5年目	9%	14%	8%	9%	6%	3%	0%	7%
6年目	3%	6%	0%	5%	0%	0%	-	-
7年目	0%	6%	0%	0%	-	-	-	-
8年目	0%	0%	-	-	-	-	-	-

3.2 退学者と除籍者の成績

表2は、退学者と除籍者を分けて、成績評価と取得科目数（平均）の関係を示したものである。成績評価の中で割合が多いのは、B（70点か80点）やC（60点から70点）に次いで、F*（失格）となっている。F*（失格）とは、出席回数が基準を満たしていない時の評価であり、授業を欠席していることを示す。また、退学者や除籍者は、80点以上のAやAA等の評価が少ないことを示している。退学者と除籍者は、多少の違いがあるものの、授業を欠席したF*の評価を多く取得する傾向がある。不合格（F）や試験欠席（F-）の割合が少ないことを考えると、授業に出席することが重要である。

表2 成績評価と取得科目数

評価	成績	退学		除籍	
		取得科目数(平均)	取得科目の割合	取得科目数(平均)	取得科目の割合
AA	100-90	1.4	2%	1.1	3%
A	90-80	5.4	10%	5.2	13%
B	80-70	14.4	25%	15.3	38%
C	70-60	14.1	25%	14.5	36%
F	不合格	4.2	7%	4.1	10%
F-	試験欠席	2.4	4%	2.7	7%
F*	失格	12.7	23%	13.0	33%
N	認定	1.5	3%	0.5	1%
P	合格	0.4	1%	0.3	1%

3.3 失格者の多い科目

中途退学者は、失格の評価（F*）が多いことから、退学者と除籍者の失格の多い科目を集計した。その結果を表3と表4に示す。

表3 退学者の失格の多い科目

	2015	2016	2017	2018
1位	外国文学	Integrated Skills I -a	情報処理演習b	人間共生論
2位	情報処理演習b	Reading I -a	心理学a	Integrated Skills I -a
3位	大学入門・活用	情報処理概論a	地球環境論II	Reading I -a

表4 除籍者の失格の多い科目

	2015	2016	2017	2018
1位	情報処理概論a	Integrated Skills I -a	情報処理概論b	人間共生論
2位	Writing I -a	外国文学	情報処理演習b	Writing I -a
3位	情報処理演習a	Reading I -b	マーケティング概論a	Integrated Skills I -a

退学者と除籍者の失格の多い科目の1位は、2016年から2018年までが同じ科目であるが、英語系科目、情報処理科目、大学共通科目と異なる科目群である。

これらの表からは、これ以上の共通点や差異を見つけることができないことから、特定の科目から退学者や除籍者を抽出できないと考えられる。

4. 考察

大河内ら⁽²⁾のように工学分野では、工学の基礎である数学の試験から中途退学者（退学者や除籍者）の予測可能である。しかし、本学の外国語学部は、表3や表4の結果を踏まえると、英語系科目だけでなく、情報系科目やその他の科目も中途退学者の要因になっていると考えられる。一方、本稿では、中本ら⁽³⁾と同様に低い単位取得者が中途退学者になる傾向を示し、成績評価の失格F*が重要であると考えられる。また、退学や除籍の理由は、学力不足だけではなく、進路変更や経済的理由が挙げられるが、本当の要因はわからない。

5. まとめ

本稿では、文京学院大学の外国語学部生の中途退学者を分析し、下記の通り、中途退学者（退学者と除籍者）の特徴を示した。

退学者の割合は1年目から2年目が多く、除籍者の割合は2年目から3年目が多い傾向を示した。退学者と除籍者の取得科目数は、評価のBやC、失格のF*が多く、評価が高いAAやAが少ない特徴を示している。しかし、失格のF*の科目は、退学者と除籍者が2016年から2018年の第1位を示しているが限定的であり、年度ごとに変化した。これらの事を踏まえると、特定の科目で中途退学者を見つけることは難しい。一方、学生の成績評価の失格F*は、退学者でも除籍者でも同一の特徴があるので、中途退学者の一つの指標になると考えられる。

よって、今後の課題は学生の成績評価を活用した外国語学部における中途退学者の予測モデルを検討することである。

参考文献

- (1) 日本学生支援機構: “大学等における学生支援の取組状況に関する調査（令和3年度（2021年度））結果報告”（2022）
- (2) 大河内佳浩, 山中明生: “プレースメントテストや高校の履修状況などのデータを用いた初年時成績不振者の早期発見”, 日本教育工学会論文誌, Vol.40, No.1, pp.45-55 (2016)
- (3) 中本陵介, 桜井延子: “外国語学部生をつまづき傾向の分析および支援対策等に関する報告”, 高等教育フォーラム, Vol.9, pp.59-69 (2019)
- (4) 白鳥成彦: “中退防止における2つのIRアプローチ - 高大接続アプローチと教学アプローチ -”, 第7回大学情報・機関調査研究集会, pp.106-111 (2018)
- (5) 仲田知弘, 浜正樹: “外国語学部における科目履修システムに基づく分析”, 電子情報通信学会 2023年総合大会, p.113 (2023)